

普及活動情勢報告（平成30年8月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

スマートフォンゲームと高知のお米のコラボ！収穫祭を開催！



よさ恋美人の収穫をする
坂口氏

8月4日に、ゲームクリエイター坂口博信氏らゲーム界の著名人が高知市介良で稲刈りを実施しました。昨年、同氏が雑誌の企画で介良で米づくりを行ったことをきっかけに、今年度は高知市の稲作農家や米穀業者、関係機関が協力し、スマートフォンゲーム「テラウォーズ」と「高知のお米」のコラボプロジェクトに取り組んでいます。普及所ではこのプロジェクトの立案・計画から、収穫祭の運営を支援しました。収穫したお米は「月光（つきひかり）」と命名し、9月から販売する計画です。

今後も普及所は、このプロジェクトを通じてお米の新規需要や販路の開拓に取り組んでいきます。

低濃度エタノールによる土壌還元消毒の現地実証試験に取り組んでいます



順調に準備中

7月26日、露地ショウガほ場で低濃度エタノールを利用した土壌還元消毒を設置しました。普及所は農家や関係機関と協力し、前日までに灌水チューブ設置やポリの被覆、当日は作業の補助や流量の確認など順調に進めることができました。農家から「どの位水を流したら良いか？」、「液肥混入機の取り付け方は？」など積極的な質問がありました。

今後も普及所は、試験研究機関やJAと連携し実証試験を行うとともに、試験結果を部会等に周知し、この消毒法を広めていきます。

新規就農者向けキュウリの基礎講座を開催しました



熱心に勉強中

8月8日、JA高知春野キュウリ基礎研修の第2弾として、農業経営について研修会を開催しました。

普及所からは、農業経営は、その年の単価や重油代で大きく変動し、所得が不安定になることや、栽培成績や経営管理で経費も大きく変わることから、効率的にコストをかけることの重要性などの産地分析結果を示しました。

今回は、部会役員の提案で、「営農課以外にもキュウリ農家の経営実態を知ってもらおう」と、共済・金融・購買課からも参加がありました。

次回以降は、栽培、病虫害、ハウス構造の基礎講座を予定しており、キュウリ経営を総合的に支援していく計画です。

6次産業化支援チーム会で加工品の販路拡大に取り組んでいます



イラストのイメージは？

8月6日、JA高知市女性部鏡支部の加工部会を対象に、6次産業化支援チーム会を開催しました。普及所はコーディネーターとして、前回チーム会以降の進捗状況を事前に聞き取り、話し合う内容やどこまで進めるかを所内協議してから会に臨みました。そして6次産業化サポートセンターのアドバイザーから助言を受けながら、パッケージのリニューアルについて検討し、どの商品からやるか、デザインのイメージ、印刷発注のテクニックなどのアドバイスいただきました。普及所は、商品規格書の作成なども支援しています。

今後も普及所は、引き続き6次産業化商品の販路拡大の取り組みを支援していきます。

グロリオサ専作農家の経営カウンセリングを実施中！



皆で改善策を検討中

7月19日の経営改善勉強会を受け、普及所が作成した分析シートを基に、8月末時点で12戸のカウンセリングを行いました。カウンセリングでは、各経営体の5カ年の決算書と、秀品率や反収といった栽培成績をもとに、各経営体の改善点を確認しました。

多くの農家から、普段は日々の作業に追われ、ゆっくりと自分の経営を見直す時間がないとの声がありました。今後は、個々の経営目標の達成に向けて、JAと役割分担しながら、栽培技術と経費面の両方から改善に向けた実践に取り組んでいく計画です。

普及所では、このカウンセリングをきっかけに、1つでも多くの取り組みが所得向上につながるよう、一緒に考え、取り組みを進めていきます。